

令和3年9月

普及活動報告

飼料用米実証ほ現地見学会で「やまだわら」を紹介～亀岡市～

(亀岡市：30日)



普及センター職員が実証ほの状況を説明



収穫期を迎える「やまだわら」

「京都府飼料用米生産利用推進研究会」主催の実証ほ現地見学会で、飼料用稲タスクチームで取り組む現地実証ほを紹介しました。

普及センターは、現地で実証中の多収性水稻品種「やまだわら」の紹介と併せて、飼料用米と産地づくり交付金との関係などを解説しました。

参加者からは「飼料用米に取り組む意義が理解できた」「やまだわらの特性が分かってきた」との声が聞かれました。普及センターでは今後、収穫調査により更に特性を確認する予定です。

場 所 亀岡市河原林町ほ場

出席者数 48名

京都府の飼料用米栽培面積は101haで、5年前のピーク時の7割に留まっている

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年9月

普及活動報告



ドローンでの農薬散布状況

黒大豆でのドローン（農業用マルチローター）による農薬散布効果を調査 ～南丹市日吉町～

（南丹市：30日）

水稻を中心にドローン防除に取り組む農家が現れる中、黒大豆でも同様の防除に取り組む農家が増えつつあります。

今回、現地ほ場のドローンによる農薬散布作業に合わせ、黒大豆の株間に感水紙^{*}を設置し、農薬の付着程度や散布前後の害虫発生状況を調査しました。

普及センターは今後、調査結果を取りまとめ、黒大豆栽培でのドローン利用についての検討材料に活用します。

※感水紙…水に触れると色が変わる試験紙



感水紙で農薬の付着程度を確認

場 所 日吉町四ッ谷

出席者数 13名

管内の黒大豆栽培面積：約120ha

京都府南丹農業改良普及センター